

## 部会活動

## 統計調査部の仕事とあゆみ

統計調査部 木下 久美子  
山崎 捷子

会員図書室の調査を毎年行い、その結果を「図書室年次統計調査報告書」として発行するのが統計調査部の仕事である。従来は重複雑誌交換のための調査・目録発行も行っていたが、作業負担が大きいこともあり、平成11年度からは目録発行を中断している。

1981年から部としての活動を開始したが、それ以前の様子も含め1989年までの経過は、首藤<sup>1)</sup>が「設立15周年記念号」に詳しくまとめているのでそちらをご覧下頂きたい。1990年以降の発行経過は(表1)のとおりである。調査項目を一部修正してきたが、年推移をみたり、過去のデータと容易に比較できるよう、調査項目を大幅に改定することは避けてきた。

表1. 統計調査報告書の発行(1990年以降)

調査対象年度	発行年月	担当者
昭和63年度	1990. 3	松本(住友)
平成元年度	1991. 3	笠原(名一赤)
平成2年度	1992. 3	笠原(名一赤)
平成3年度	1993. 3	笠原(名一赤)
平成4年度	1994. 3	木下(高山赤)
平成5年度	1994. 9	木下(高山赤)
平成6年度	1995. 10	木下(高山赤)
平成7年度	1996. 10	木下(高山赤)
平成8年度	1997. 10	木下(高山赤)
平成9年度	1998. 10	木下(高山赤)・山崎(淀キリ)
平成10年度	1999. 12	木下(高山赤)・山崎(淀キリ)
平成11年度	2000. 10	山崎(淀キリ)

きした くみこ：高山赤十字病院  
やまざき かつこ：淀川キリスト教病院

## 今後の調査・報告について

この報告書で、会員図書室全体の設備・蔵書・予算・担当者配置などの実態や傾向がわかる。しかし、担当者の配置やその継続教育がどれほど図書室機能・サービスに影響を与えているかは、わからない。担当者が1、2名といった小規模図書室では、担当者の配置・質が図書室機能・サービスを大きく左右するだけに問題である。また、IT時代にあっては情報設備の充実とそれを使いこなす担当者の存在(能力)が重要である。しかし、現在の調査・報告書は、時代に対応する図書室像・担当者像をイメージさせるものとは言い難い。このように、年次調査・報告は課題を抱えている。IT時代にふさわしい病院図書室像・担当者像をベースにした調査・報告書が期待される。

そこで、その作業をぜひ若い会員の皆さんに引き受けていただきたく思う。統計調査部を引き受けるなど、協議会の諸活動に積極的にかかわることは、先輩・仲間と意見を交わす機会を増やすこととなる。仲間と共に課題に取り組み解決の道を模索することは、個人の貴重な財産となる。こういった経験の積み重ねが、自らの病院(施設)における地位の確立につながるのはい言うまでもないだろう。

## 参考文献

- 1) 首藤佳子：統計調査部のあゆみ，病院図書室，1989；10：62-67.